

2013年5月15日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

慶應義塾大学 SFC 研究所にて開発した手法を活かし、 Fujisawa サステナブル・スマートタウンにて スマートタウンの「幸福度」や「科学技術の社会インパクト」を測る評価システムの実装を推進

慶應義塾大学 SFC 研究所(神奈川県藤沢市、所長:金子郁容、以下 慶應 SFC 研究所)は、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業¹における公募型プログラム²の採択プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」³の一環として研究開発した手法を、パナソニック株式会社(以下、パナソニック)が推進する「Fujisawa サステナブル・スマートタウン(以下 FSST)」や関連事業において、NDA 締結のもと、スマートタウンの「幸福度(生活価値や暮らしやすさ)」や「科学技術の社会インパクト」を測る評価システムとして実証的に提供しております。また、慶應 SFC 研究所(担当:玉村雅敏・准教授)は、その知見をもとに、FSST 協議会のアドバイザー等として貢献しております。

このたび、その活動の一環として、パナソニックが中心となり進めてきた「FSST を中心とする広域分散ネットワーク型スマートコミュニティ事業化可能性調査」(一般社団法人新エネルギー導入促進協議会「平成 24 年度スマートコミュニティ構想普及支援事業」として実施)において、社会的効果・効用を評価するための手法として利用されました。

慶應 SFC 研究所は、本プロジェクトを推進することにより、科学技術・イノベーションを通じて、社会的価値の向上に貢献する社会の実現や、スマートタウンの特性を活かしたグリーンイノベーションやライフイノベーションの実現に貢献し、真に豊かな未来社会の実現を目指します。

1. 背景と概要

慶應 SFC 研究所では文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業における公募型プログラムの採択プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」にて、科学技術への社会的期待の調査や指標化、投資効果の定量分析などの手法開発に取り組んできました(参考を参照)。

慶應 SFC 研究所にて研究開発した手法を活用して、パナソニックが推進する FSST や関連事業において、スマートタウンの幸福度や科学技術の社会インパクトを測る評価システムの研究と実装支援を推進します。

2. 具体的取り組み

2012 年度には、パナソニックが「平成 24 年度スマートコミュニティ構想普及支援事業(一般社団法人新エネルギー導入促進協議会)」を受けて実施した「FSST を中心とする広域分散ネットワーク型スマートコミュニティ事業化 FS 調査」において、慶應 SFC 研究所(担当:伊藤健・特任助教)が研究開発をしてきた「スマートソリューション対応型 SROI (Social Return on Investment: 社会投資収益率)手法」(= 科学技術ソリューションとコミュニティソリューション施策を複合的に適用した際の社会インパクトを計量分析する手法)を提供し、科学技術に基づく新たなタウンマネジメントサービスを FSST 周辺地域に導入する際の社会的効果・効用を評価する手法として活用されました。

また、同様に慶應 SFC 研究所(担当:高橋武俊・特任助教)が研究開発をしてきた「科学技術への社会的期待を調査・指標化する政策マーケティング手法」を提供し、地域に蓄積された市民意識調査等のデータ(約 59000 個の発言)を再分析し、スマートソリューションが貢献することが期待される「生活価値(= 地域社会が期待する最終アウトカム)」を FSST のタウンマネジメント軸に基づいて体系的に把握する手法として活用されました。

今後、タウンマネジメントを支える情報として、スマートタウンの各種データ等を用いて、幸福度や社会インパクトを測る評価システムを研究・開発します。具体的には、以下の 2 つの手法の検討と、テーマを設定した試行運用を行います。

(1) スマートモニタリング手法

高い生活価値や暮らしやすさの実現には、多様な活動やサービス展開が求められます。その際に、情報の蓄積と分析・共有により、根拠(エビデンス)に基づく展開を行うことで、その質を高めていくことが可能となります。本推進では、政策マーケティング手法を応用して研究開発された「科学技術への社会的期待の調査・指標化」手法を用いて、スマートタウンの「幸福度」の測定モデルや、効率的・効果的な情報取得手法、街の実データを用いて現状値を測定する手法等を検討します。

1 文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業 <http://crds.jst.go.jp/seisaku/index.html>

2 (独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」<http://www.ristex.jp/stipolicy/index.html>

3 研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」<http://www.ristex.jp/stipolicy/project/project03.html>

(2) スマートアセスメント手法

様々な活動やサービス展開、科学技術の活用等を通じて達成しうる社会的インパクトについて、定量的にアセスメントを行うことで、より効果的なサービス等の展開や科学技術の活用を行うことが可能となります。本推進では、SROI 手法を軸に、スマートタウンにおける科学技術適用やコミュニティ・サービス等の展開効果の定量分析を可能とする手法や活用モデルを検討します。

以上

(参考) 研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」について

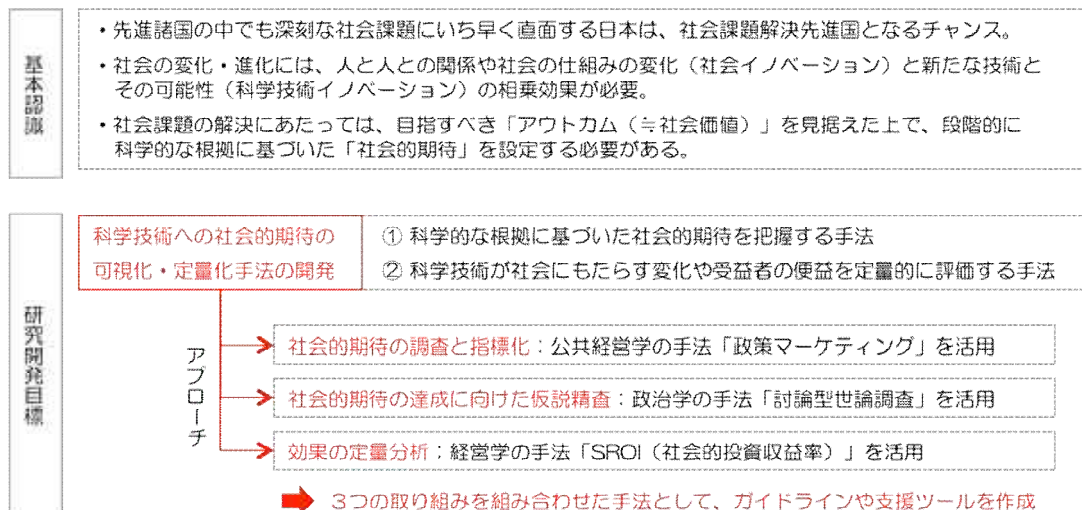
先進国の中でも様々な社会課題に早く直面する「社会課題先進国」である日本にとって、限られた社会的資源を効果的に投入して、高い社会生産性を実現し、様々な社会課題を解決していくかが重要となっています。

そのためには、科学技術への社会的期待を可視化・定量化し、その情報を巡って、科学技術と社会に関わるコミュニケーションを加速させ、技術イノベーションと社会イノベーションが相乗効果を発揮することが必要です。また、科学技術に関するプロジェクト立案、投資案件の審査、プロジェクトのモニタリング、事後評価などにおいては、社会にもたらす変化や受益者に対する便益を定量的に検討した上で、その社会的インパクトの仮説に基づいた判断を行うことが求められています。

そこで、慶應 SFC 研究所では、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業における公募型プログラムの採択プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」において、これまで社会科学領域で実践的に研究されてきた社会的期待を把握することに貢献する調査手法等を科学技術政策の分野に導入することで、より客観的根拠に支えられる科学技術政策の展開を可能とすることに取り組んでおります。

本プロジェクトにおいて研究開発する手法を活用することで、科学技術の研究開発プロジェクトにおいて、その前提とする社会的期待がどのようなものなのかが明らかになり、その社会的期待に応えるためにはどのような科学技術の革新や社会イノベーションが求められ、その開発や実現にむけてどのような政策的なリソースの動員が求められているかについての仮説構築が推進されれば、国民の社会的期待から政策立案に至る合理的な政策形成のプロセスを確立する環境が醸成される可能性があると考えています。

本プロジェクトは具体的に、政策マーケティング手法、討論型世論調査、SROI (Social Return on Investment: 社会的投資収益率) 分析手法という 3 つのアプローチから研究開発を行い、さらに、3 つのアプローチを有機的に連動させることで、科学技術政策形成プロセスの基盤となる社会的期待の可視化・定量化の手法開発に取り組んでいます。



本発表資料のお問い合わせ先：

慶應義塾大学 SFC 研究所 科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発プロジェクト

TEL:03-4590-0444 FAX:045-330-4343 e-mail : sest-info@sfc.keio.ac.jp (担当：伊藤)